

令和 7 年度 県立鹿島高等学校附属中学校自己評価表

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 6年間を見通した教育実践をとおして、確かな学力を育むことのできる学校 ◇ 様々な人々との交流を通じて、豊かな人間性とコミュニケーション能力を育むことのできる学校 ◇ 文武両道の精神のもと、心身の健全な発達を育むことのできる学校 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>昨年度は、中高のつながりの部分を意識し、探究学習時や海外語学研修を実施するなど、学校として独自の特色を構築する試みを実践した。</p> <p>今年度は、学校行事や探究学習など様々な活動を通じて、中高のつながりを更に深化させていきたい。</p> <p>また、ICTを有効に活用し、授業や働き方に工夫を凝らしながら、PDCAサイクルを繰り返すことで、生徒も教職員も更なるレベルアップを図っていきたい。</p>	学力向上に関する項目	生徒の学力向上のため、デジタル教材とアナログ教材の併用を効果的に行うことで、学習指導の充実を図り、学習の質を向上させていく。	A
	ICT教育の充実に関する項目	県から1人一台貸与されているChromebookを効果的に活用し、Google ClassroomやClassiNOTE等の学習支援アプリを活用した学習スタイルを確立させていく。	A
	基本的生活習慣の確立に関する項目	学校全体として統一的な指導体制「み(身だしなみ)・そ(掃除)・あ(あいさつ)・じ(時間を守る)」を堅持し、家庭や関係機関との連携を組織的に進めながら、自主的・自律的かつ責任ある行動ができる人間の育成を図る。	A
	探究学習の推進に関する項目	本校独自の探究の取組を考案し、実践しながら探究学習の充実を図る。	A
	コンプライアンスの徹底(「たいせつです」運動)及び働き方改革の推進に関する項目	「たいせつです」運動(体罰の根絶・飲酒運転の根絶・セクハラ等の根絶・使い込みの根絶・データ漏洩の防止・スピード違反の防止)の推進を含め教職員のコンプライアンス意識を高め、服務規律の確保に努めるとともに、教職員の「働き過ぎ」を防ぐなど働き方改革を推進する。	A
	授業改善に関する項目	授業満足度(KPI)3.6以上の達成	A

別紙様式 2 (中)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国語	基礎・基本の確実な習得	小テストなど具体的な学習課題を課し、確かな基礎学力の向上を図る。	A	A	小テストや課題を実施し、語彙力と基礎学力の向上を図る。
	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けさせる。	A		書くことを繰り返し、論理的な思考力の向上を図る。
	個に応じた指導	授業観察・課題提出・小テスト等で生徒の学習状況や理解度を把握し、個に応じた指導を行う。	A		課題などを設定し、個に適した指導を実施する。
社会	基礎・基本の確実な習得	テキスト・プリント・小テストなどを活用しながら少人数授業を展開し、基礎学力の定着を図る。	A	A	少人数授業や単元テストを継続して実施する。
		I C T機器を活用し、学習活動の工夫を図る。	A		Google、Classi の諸機能を有効活用する。
	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	社会的事象を、人間の営みと関連付けたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりする能力を身に付けさせる。	A		地歴を横断的に、現代との繋がりを意識した課題を設定する。
	主体性の育成	課題探究やプレゼンテーションの機会を設け、主体的に学習に取り組む姿勢を育む。	A		頻度を工夫し、適切な機会を設定する。
数学	基礎・基本の確実な習得	課題を精選し、興味をもって取り組めるようにし、基礎・基本の定着を図る。	A	A	家庭でも復習できるようにする。
	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	他者の意見をI C T等を活用して可視化し、多角的なものを見方ができるようにするとともに、発表の機会を増やしアウトプットにより更に深く理解できるように促す。	A		グループやペアでの発表の機会を増やす。
	個に応じた指導	習熟度別学習を実施し、きめ細やかな指導を行う。	A		2グループから3グループにできるとよい。
理科	基礎・基本の確実な習得	実験やI C T機器の積極的な活用など生徒が主体的に活動する機会を増やし、自ら学ぶ姿勢を身に付けさせることで、学習の確実な習得を図る。	A	A	AIを活用した授業づくり。
	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	自然の事物・現象を科学的な視点で捉え、比較したり・関係付けたりするなど、科学的に探究する方法を用いて考えさせる。	A		単元ごとに探究的な学習に取り組んでいく。
	「科学教育」の推進	学校外部の施設訪問や講演等を通じて生徒の興味・関心を促し、視野を広げさせる。	B		外部機関との連携を強化する。
保健体育	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	運動やスポーツの価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上が果たす役割を理解し、自己の適性等に応じた多様な関わり方と関連付けさせる。	A	A	多様な関わり方を更に発展させていく。
	各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解する	様々な運動に取り組み、各種運動の基礎・基本技能の定着を目指す。	A		様々な運動の取り組みの継続性を持たせる。
		運動における競争や協働の経験を通して、公正安全に取り組む態度を育成する。	A		怪我の予防を徹底する。

別紙様式2 (中)

	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上に努める	健康の保持増進と体力向上を目指し、日常的、計画的に運動に取り組む態度を育成する。	B		自主的に取り組むきっかけを与える指導をする。
		現代の健康課題を明確に捉え、健康増進のための知識・手段を身に付けさせる。	A		新たな情報も含めて知識を高められるよう指導する。
芸術 (音楽・美術)	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けさせる。(音楽)	A	A	音楽を分析的にとらえ、感情や生活と関連づけられる題材を設定する。
		感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりださせる。(美術)	A		感性や想像力を最大限に生かす制作活動のできる題材を設定する。
	生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成	幅広い教材を取り上げ、生徒の持つ芸術的な価値意識を一層拡大できるよう工夫する。	A		今後も幅広い教材を取り上げる。
		生活を豊かにするための創造活動を重視し、基礎的な資質・能力を育成する。	A		生徒にとって身近なものから芸術への興味を広げていく。今後も継続して題材に取り上げる。
	我が国の伝統文化や諸外国の芸術・文化についての関心や理解の探究	日本の伝統音楽に触れる機会を増やし、歴史や考え方など発展的な学習を行う。(音楽)	A		今後も日本の伝統音楽を題材として取り上げる。
		鑑賞や制作活動を通して日本の伝統美術の独自性を考察させる。(美術)	A		今後も日本の伝統美術を題材として取り上げる。
		それぞれの分野の歴史・背景・多様性について考察する場の設定・教材の工夫に努める。	A		鑑賞活動をより充実させていく。
	外国語 (英語)	基礎・基本の確実な定着	T2体制や少人数制をとり授業中の積極的な声かけを行うとともに、課題の点検、小テスト、スピーチ等を通して生徒の理解度を把握する。必要に応じて補習等を企画する。		A
具体的な学習サイクルを示し、家庭学習の定着を図る。			A	音読音声の提出等を行い。復習の質を向上させる。	
「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現		目的・場面・状況に応じて、情報や自分の考えなどを形成・整理・再構築する。	A	今後も継続して、単元末の活動を充実させる。	
4技能のさらなる向上		A L Tとのコミュニケーション活動を通して、ネイティブの英語に触れる機会を増やす。	A	各学年、年3回以上のパフォーマンステストの実施を継続。	
		I C T機器・アプリを積極的に活用することで4技能5領域の英語力をバランスよく身に付けさせる。	A	アプリの活用を促進する。	

別紙様式 2 (中)

		英検 I B A や英検等の受験結果を分析し、実態に応じた授業計画を立てる。	A		各学年の強み弱みの分析を指導計画により反映させること。
技術・家庭	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	生活や社会における事象を、技術との関わりで捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化させる。(技術)	A	A	自ら進んで、日常生活における技術の課題を設定できるようにする。
		家庭分野で学習対象とされている生活事象を、「協力・協働、健康・快適、安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築」等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫させる。(家庭)	A		生徒にとって身近な課題を生活のなかから設定できるように工夫する。
	生活に必要な知識と実習・実験の充実	実習・実験をとおして技術の定着を図り、生涯にわたって自立した生活を創造できるようにする。	A		実習・実験で扱う内容の精査。
教務	中高一貫教育校の運営の推進	グランドデザインを基に魅力ある教育活動を実施し、高校との円滑な連携に尽力する。	A	A	海外異文化体験・語学研修を成功させる。
	授業スタイルの確立	6年間を見通した学校としての授業スタイルを確立し、充実した学習環境を提供する。	A		相互授業参観を利用した、中高で連携した授業展開。
	授業時間の確保と行事の調整	計画的に行事を行えるよう調整するとともに、授業時間の確保に努める。	A		学校行事を改善・精選し、授業時間を確保する。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	規則正しい生活リズムの確立を図る。	A	A	生徒自らがルールを守る意欲を持てるような機会を作りたい。
		集団生活の中でルールを遵守する精神の育成に努める。	A		回数を増やしたい。
	交通安全教育の推進	講演会の実施や校外指導等を通じて、交通安全教育を行い、事故防止に努める。	A		情報モラルを高める指導を増やしたい。
	情報モラルの育成	情報活用能力の育成を図ると同時に情報モラルの育成に努める。	A		生命の大切さを考える指導をする。
進路指導	適切な進路情報の提供	定期的な進路資料の作成・配付、面談時の資料提供等を行う。	A	A	適切に資料提供をしていく。
		中学3年間、高校を含めた6年間を見通した進路指導を計画・実施する。	A		中高連携行事の充実を図る。
	計画的な進路指導の実現	学年・教科と連携して、模試・検定を実施、サポートし、生徒実態把握やキャリア形成に努める。	A		模試や検定の日程や内容を精選し、継続して実施していく。

別紙様式 2 (中)

	探究学習と連動した進路指導の実現	インターンシップや体験授業等、探究学習と連動したキャリア教育を実施していく。	B		体験授業の拡充を図りたい。
特別活動	生徒会活動の充実	生徒による主体的な生徒会活動が行われるように支援する。	A	B	35人学級や男女の人数比に対応した生徒会活動の実践。
	部活動の充実	部活動を奨励し、心身の健康の維持・増進に努める。	B		地域クラブとの連携や協力を進める。
	ホームルーム活動の充実	キャリアパスポートや手帳を活用して、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるようにさせる。	B		生徒の負担軽減のため、手帳の記入を簡略化できるようにする。
	学校行事の充実	生徒が中高で連携して、学校行事等の企画運営が進められるよう支援する。	B		中高合同の学校行事を増やす。
図書視聴覚	図書館の環境整備や広報活動	高校と連携し、生徒が本に親しめる利用しやすい環境づくりを行う。	A	A	附属中職員室前の「ブックコーナー」を充実させる。
	生徒の読書意欲の向上を図る	図書委員の生徒による活動を支援し、朝の読書などをとおして生徒の読書意欲向上を図る。	A		図書委員の「紹介カード」の作成を定期的実施する。
渉外	PTA 活動への協力	高校の PTA に協力して PTA 総会などの各種事業を推進する。	A	A	卒業生の方が PTA 役員となり、活躍しているため、継続して取り組みたい。
	スクールバスの円滑な運営	スクールバスの定期券発行から定期券販売まで円滑に実施する。	A		円滑な連携を継続して進めたい。
保健厚生	健康診断と事後措置	健康診断結果の分析と、疾病の早期発見・早期対応。	A	A	学校医等と連携した生徒の健康管理意識への働きかけ。
	校内環境の整備と美化	安全点検の実施や教室の美化活動(ワックスがけ)、清掃用具の適切な管理。	A		SSS との連携。生徒の環境意識を向上させる働きかけ。
	防災・防犯訓練の実施	防災避難訓練を計画的に実施し、災害時の対策を徹底する。	A		校内、また地域との合同でのより良い訓練の計画と実施。
教育相談	困難な状況にある生徒への適切な援助	早期発見・早期介入の徹底、情報共有とチーム支援	A		SC,SSW 等との連携でチーム支援体制の構築
情報	生徒情報管理の徹底	Google Workspace for Education (Classroom など)、Classi、Benesse ハイスクールオンライン等の生徒情報の管理・更新を行う。	A	A	クラスルームを利用して管理・更新をする。
	ICT 機器の整備・管理・更新	ICT 機器の整備・管理・更新等を適切に行い、ICT 教育が円滑に行えるようにする。	B		情報モラル教育にも取り組みたい。

別紙様式 2 (中)

	校務支援システムの運営	県立学校統合型校務支援システムの適切な管理・運営を行う。	A		適切に使用していく。
	働き方改革の推進	文書や教材などを共有、分担し業務の平準化をめざす。	A		積極的に ICT を利用し、利便性追求していく。
広報	中高連携した企画運営	中高職員で連携し、保護者、小学生にとって有益な情報を発信する。	A	A	説明会や HP 等にて中興の連携行事等の発信。
	積極的な情報発信	ホームページの運営を適切に管理する。 Classi を活用して、必要な情報を生徒や保護者に発信していく。	A		HP 更新の頻度を上げていく。
	広報活動の刷新	スクールガイド、クリアファイル、ポスターを製作し、地域に見える広報活動を行う。	A		より行事や特色が伝わるよう見せ方を検討。
地域や保護者と情報共有できるように刊行物の配布等を行う。		B	HP や Classi 等で生徒の様子をより積極的に配信。		
給食 (食育)	正しい食事のあり方や望ましい食習慣の育成	衛生面に配慮し、食前の手洗い・消毒を徹底させる。	A	A	衛生面への意識向上を図る働きかけを実施する。
		栄養や食事に対する正しい知識とマナーを身に付けさせる。	A		栄養やマナー意識を啓蒙する働きかけを実施する。
1 学年	基本的な生活習慣の確立と意欲・責任感の育成	整理・整頓、時間を守ることを意識させることで、生活習慣を確立させ、係活動を一人一人に割り振ることで責任感を育成する。	A	A	宿泊を伴う学習に向けて、規範意識を育成する。
	主体的に学習に取り組む態度の育成	家庭学習を大切にし、Classi の学習記録を習慣化させながら、自己調整力を向上させ主体的に学習に取り組む態度を育成する。	B		家庭学習の習慣を定着させる。
	特別活動に積極的に参加する態度の育成	特別活動の意味、目標を伝え、価値のあるものにすることで、積極的に参加する態度を育成する。	A		後輩への見本や指導ができるようにする。
2 学年	基本的な生活習慣の確立と意欲・責任感の育成	毎日の清掃や時間を守るなどの生活のきまりを遵守することを通して、自律心と学級での共生意識を育む。	A	A	生徒一人一人に役割を与えることで責任感を育む。
	主体的に学習に取り組む態度の育成	授業や家庭学習を大切にし、手帳などを用いることを通じて、自己調整力を向上させ主体的に学習に取り組む態度を育成する。	B		生徒が主体的に学習に取り組むための授業改善。
	特別活動に積極的に参加する態度の育成	特別活動への積極的な参加・活動をとおして、適切な声かけを行い、生徒が自分の力を発揮できるよう支援する。	A		生徒が活躍できる場を設定する。

別紙様式2 (中)

3 学年	基本的な生活習慣の確立と意欲・責任感の育成	毎日の清掃や時間を守るといった生活のきまりを遵守することを通し、学級での共生意識と自律心とを育む。	A	A	高校生活に向け、自律した行動を行えるように働きかける。
	主体的に学習に取り組む態度の育成	授業や家庭学習を大切にし、計画を立てて実行することを通して自己調整力を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を育成する。	B		学習習慣と進路意識を高揚させ、高校へ円滑な接続を行う。
	特別活動に積極的に参加する態度の育成	行事や特別活動への積極的な参加を通し、生徒が自分の力を発揮する場を見つけられるよう適切な声かけなどを行い支援する。	A		自他に尊重されるリーダーの育成を図る。

※ 評価規準：A：大変よくできた B：よくできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分